



松ヶ崎だより

学校評価特集号

京都市左京区松ヶ崎堀町 40
TEL.075(781)3380 / FAX.075(781)3252
<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=108201>



令和 5 年 10 月 27 日
京都市立松ヶ崎小学校
校長 岡崎 秀樹



本年度前半を振り返って

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートは学校評価の一環として、子どもアンケートとともに実施しています。本号では、アンケートの結果と、結果をもとにした自己評価についてダイジェストでお伝えします。

<アンケート調査の概要>

対象	調査期間	対象数	集計数
子ども	6月 6日(火)～23日(金)	351名	336名(95.7%)
保護者	6月19日(月)～26日(月)	351名	198名(56.4%)

<アンケート調査の特徴>

昨年度より児童・保護者・教職員のアンケートでの質問を、いずれもが同じ内容になるようにしました。

例) 項目1

子: 学校へ行くのが楽しい。

保: 子どもは、学校へ行くのが楽しいと感じている。

教: 学校が楽しいと感じるように、授業をしったり活動をさせたりしている。

<アンケートをもとにした自己評価の流れについて>

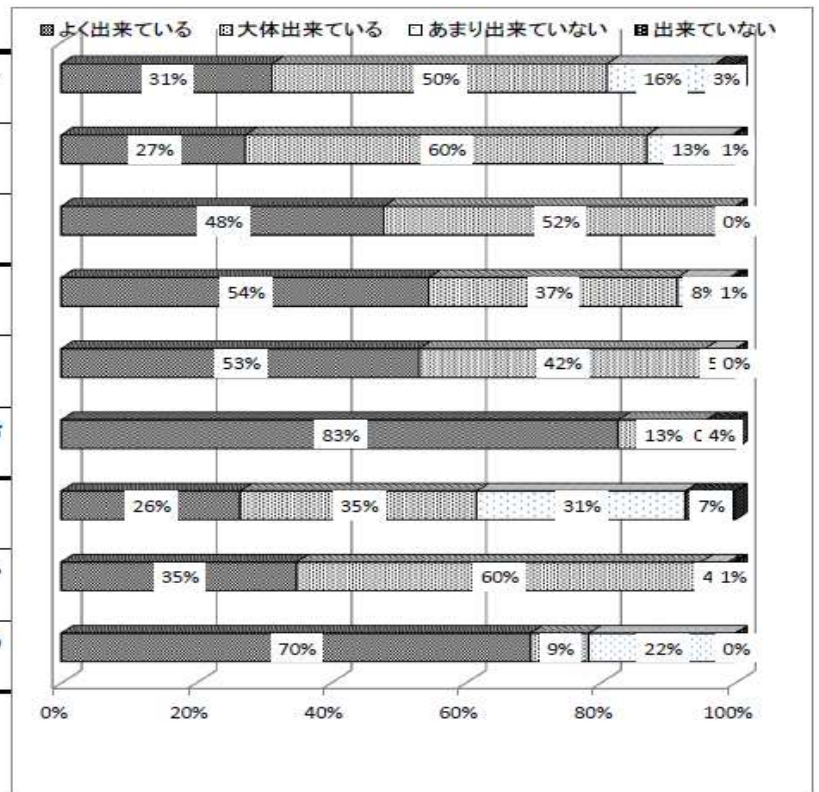
- ① 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「学級経営」「働き方改革」「いじめの防止」という6つの視点で教職員にもアンケート調査を実施(6月)
- ② アンケート結果をもとに成果と課題を明らかにし、課題の解決に向けた取組を教職員で話し合うための研修会を実施(8月)
- ③ 自己評価の中身について、学校運営協議会に説明。学校運営協議会から、自己評価に対する意見と評価(9月20日)
- ④ 成果と課題、課題の解決に向けた取組をまとめた「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」を作成(10月)

<ダイジェスト版の見方>

保護者・子ども・教職員アンケートの結果を、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成という3つの視点に分けて、グラフで示しています。紙面の関係上、保護者や子どもアンケート結果のすべてをのせることができませんが、ご容赦ください。研修会を経て作成した「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」については、ホームページ上に公表予定です。

「確かな学力」の育成に向けて

子	チャイムで学習が始められるように、準備をして待っている。
保	子どもは、時間を守ることができている。
教	授業の始めと終わりなど、時間を守っている。
子	学校へ行くのが楽しい。
保	子どもは、学校が楽しいと感じている。
教	学校が楽しいと感じるように、授業をしたり活動をさせたりしている。
子	発表するときは、友達の記事に付け足したり、つなげたりしている。
保	授業では、学習を深める話し合いが行われている。
教	日常の授業で、子どもたちの考えを深め、その時間の目標に向かう話し合いを行っている。



<アンケートから見てきた成果(○)と課題(●) 課題の解決に向けた取組(□)>

学び合いの基盤となる学習規律

- 落ち着いた学習に向かう姿がどのクラスでも見られる。
- 時間を守る意識をもって学習規律を整えることができている。
- 視覚支援の工夫が十分にできていない。
- 聞く力（他者意識）を高める学習を行っていく。
- 一人一人の学びを保障するために、子どもの実態をしっかりと把握する。

2. 楽しく学ぶ授業

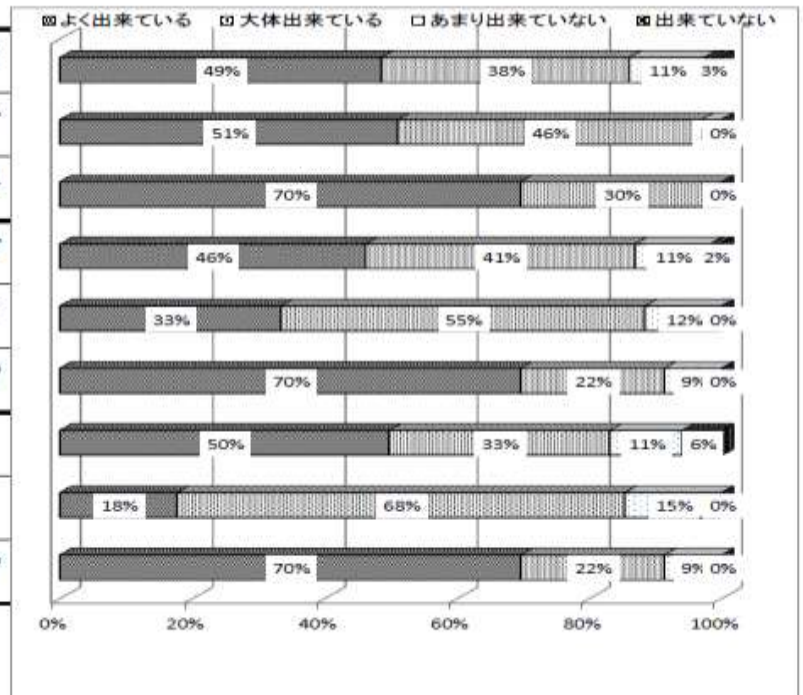
- 授業がわかりやすく楽しい、と感じられている子どもの割合が多い。
- 授業を楽しんでいると感じていない子どももいる。
- 自己存在感を感じられる授業を行う。
- 子どもたちの発言がつながる授業を行う。

3. 全体を通して

- 全体的に子ども達の学力が高い。
- タブレットを特別なものではなく、文房具のように使えるようになった。
- 平均すると学力は高いが、学習に困難を抱える子どももいる。
- 読書時間が減少している。
- タブレット使用は各学年に定着している。活用場面をさらに広げていく。
- 読書の時間を確保し、読書ノートへの記録を推奨する。

「豊かな心」の育成に向けて

子	先生は、自分のよいところやがんばっているところをほめてくれる。
保	学校の教員は、子どもの良い所やがんばっている所を認め、ほめている。
教	子どもの良い所やがんばりをほめ、価値を伝えている。
子	友だちのよいところを見つけ、誰とでも力を合わせて頑張っている。
保	子どもは、友だちの良い所を見つけ、伝えることができる。
教	「共感的人間関係を育成する」手立てを日常の授業の中で行っている。
子	自分にはよいところがあると思う。
保	子どもは、自分の良い所を自覚している。
教	「自己存在感を与える」手立てを日常の授業の中で行っている。



<アンケートから見てきた成果(○)と課題(●) 課題の解決に向けた取組(□)>

1. 「あいさつ」「はきもの」

○全体的にあいさつできる子どもが増えてきている。

●トイレのスリッパの乱れが見られる。

アンケートでは子ども達は「そろえている」と答えている割合が高い。

□計画委員会を中心に、あいさつを励行する活動を行う。

□教職員が積極的にあいさつする姿を見せる。

□日々のあいさつの様子、はきものの様子をしっかりと観察する。

2. 子どもの行動への価値づけ

○子ども達が正しいかどうかを判断して行動することができている。

●人間関係を作ることに苦手意識をもつ子どもが多い。

□教職員が自らの行動の見直しをする。「ありがとう」「ごめんなさい」を大人が言えるようにする。

□価値ある行動を具体的にほめる。

□子ども同士のつながりを作る学活の時間を設定する。

3. ルールの定着

○学校で決められたルールを守ることのできる子どもが多い。

●自己中心的な言動をしてしまう子どももいる。

□教職員でルールの共通理解をして、指導の一貫性を保てるようにする。

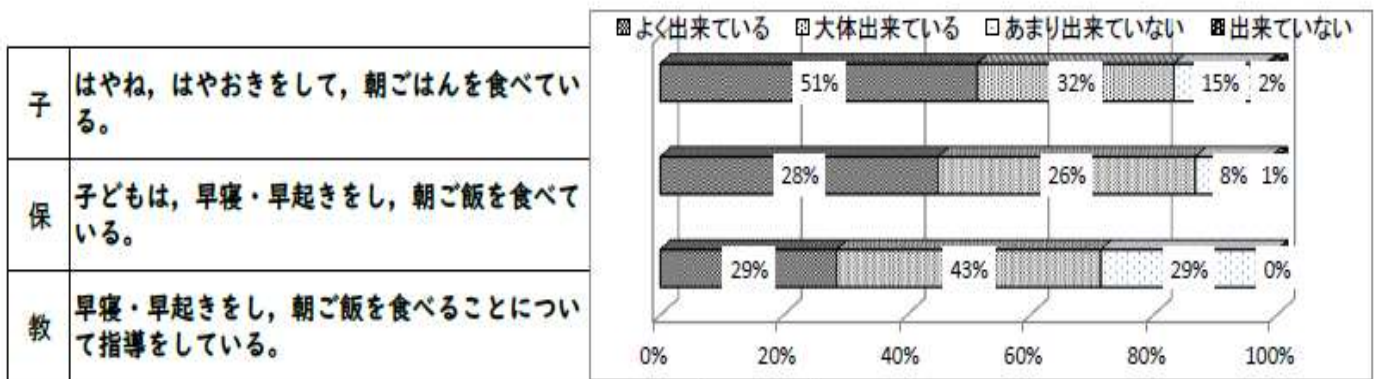
4. 全体を通して

○協力し合える集団作りが進められている。上の学年の子が下の学年の手本となるように行動することができている。

●自分には良い所がある、と自信をもって言えない子どもがいる。

□「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」という生徒指導の四視点を生かした授業づくりを進めていく。

「健やかな体」の育成に向けて



＜アンケートから見てきた成果(○)と課題(●) 課題の解決に向けた取組(□)＞

- 平常の体育科授業に戻り、元気に体を動かして学習することができている。
- 休み時間に外で遊ぶ子どもが多い。
- コロナ禍の制限で運動機会を奪われたことで、体力や運動能力の低下が見られる。
- 些細なことで骨折等の重症になるケースがある。
- ◎教師と一緒に外で遊ぶ。
- ◎家庭との連携をはかり、早寝・早起き・外遊びを定着できるようにする。
- ◎体育科指導法の研修を行う。

保護者自由記述

学校の取組について、様々な面から多くのご意見をいただきました。ありがとうございました。

ご家庭との連携は、子どもたちを育てていく上で重要なことであると考えています。今後もあらゆる面について連絡を密にしながら対応してまいりたいと思います。

以下に、ご意見をいただいた内容について、回答させていただきます。全部をここで取り上げることはできませんが、ご了承ください。ご不明な点などは随時学校までおたずねください。

また、掲載はいたしませんでしたが他に多くの労いや感謝のお言葉をいただきました。ありがとうございました。

【子どもにつけたい力・授業に関して】

- ◆細かなルールを守らせ「いうことをよく聞く子ども」「規律を守る子ども」でなく、「自分の考えをはっきり表現できる」「異なる考え方や立場をお互いに認め合える子ども」が現在の激動する世界を生きていくことに必要なことではないでしょうか。

「自分の考えを表現できる」「異なる考えや立場をお互いに認め合える」ことが大切だということについては、学校も全く同じように考えています。学校で子どもたちにつける資質・能力として「しなやかな心・学び合う力～違いを理解し、他者から学ぶ柔軟な心・コミュニケーション力」をあげています。

また、規律に関しても、子どもにつけていくもう一つの資質・能力として「自己指導能力～どのような行動が適切か、自分で考え、決めて、実行できる力」をあげています。規律を守ることは大切なことですが、守ることと同時に、適宜その意味やなぜそのようなきまりがあるのかについて子どもたちに指導していくようにし、子どもたちが自分で考えて適切な行動ができるように育てていきたいと考えております。

◆学校や授業が「嫌でも参加するべきもの」という前提ではなく、子どもが進んで行きたくなる、やりたくなるにはどうしたらよいか？という視点で工夫しつづけていただけるとありがたいなと思います。

◆参観で授業を拝見したのですが、とても工夫されていて、クラスの子も皆が自ら積極的に参加でき楽しめるもので、親が見ても面白い授業でした。

◆担任の先生、学校の教育として、子どもの考えを尊重したいと、自分で考える力をつけてほしいと話を聞き、まずは、子どもの意見を聞くことを意識しなければと改めて考えるようになりました。親としてなかなか難しいですが、毎週の学級だよりを読み、担任の先生と同じ気持ちで子どもに接することができればと思っています。

日常の授業におきましても、上述の「自己指導能力」の育成に向けて、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」に留意し、授業改善をしていくように学校全体で取り組んでおります。ご家庭でもご協力をいただくと大変ありがたいです。

◆はきものを揃えることは、重要でしょうか。

みんなが使う場所は、みんなが気持ちよく使えるようにすること、また、トイレのスリッパのような場合、みんなのものを自分が使った後、目には見えませんが次に使う人が気持ちよく使えるようにしておくことは、相手意識をもちながら人を大切にする心につながります。そのような心は、はきものに限るわけではありませんが、見えやすいものとしてはきものを取り上げて指導しています。

◆皆がみんな同じことができる必要があるのでしょうか。

◆子どもたちが下駄箱で靴を履き替えていて、担任の先生がさりげなく「傘立てに傘は2本ありませんか？2本ある人は1本持って帰ってくださいね」と声かけしてくださっていました。
小さなことですが、声かけしてくださっていること、とてもありがたく思いました。

学力保障という意味でも、各教科で全ての児童につけたい力、という一定の規準はあります。また、子どもにつけたい資質・能力についても、全ての児童につけたい力ではあります。ただし、一人一人の子どものもつ力や状況に応じて、全員に全く同じ指導をするのではなく個に応じた指導も必要であり、一人一人の子どもを伸ばしていくことができるように今後とも保護者の方と連携をとりながら、指導を進めていきたいと考えています。

【健康・安全に関して】

◆夏の暑さ対策をどのようにされているかが気になります。親が協力できることがあればさせていただきたいです。

暑さ指数に注意し、数値に応じて休み時間や授業での活動の制限をしています。教室では、エアコンを適切に使用しながら、換気にも注意しています。また休憩時間ごとに、のどがあまりかわいていなくても少しずつ水分補給をすることを呼びかけています。保護者の方には、水筒の確実な準備や子どもに応じた大きさの調整などのご協力をお願いします。

◆引き渡し訓練ですが、もう少し緊張感をもってすばやくすることは不可能でしょうか。実際に災害が起こった時のことを考えると時間がかかりすぎなのではと思います。

運動場に避難してからは、「落ち着いて」「確実に」引き渡せることを重視しています。一方で書いていただいているように効率的に動いて時間を縮める余地はまだまだあると考えています。今後「実際に災害が起こった時」をしっかりと想定し訓練を行うとともに、様々な状況での避難と引き渡しが安全に確実にできるように検討していきたいと考えています。

【図書館に関して】

- ◆図書館に誰かに常駐してもらい、いつでも利用できるようにしてほしいです。特に懇談会後や放課後上級生の兄弟を待つのに使えるようにしてほしいです。
- ◆低学年に比べてなのかもしれませんが、子どもが図書館をあまり利用していないと子どもが言っていました。

週に2回、学校司書の方が授業時間帯に図書館に常駐していますが、放課後については、人員確保が難しいのが現状です。ご理解をいただきますようお願いいたします。

図書館の活用については、時間を設定したり、教科の学習と関連付けたりするなどして、積極的に活用できるように工夫していきたいと思っています。

【学校の様子の発信に関して】

- ◆子どもが参加する学校行事などのイベントの開催の概説は伝えられてきましたが、学校で子どもたちが何を感じて過ごしているかは多くは伝えられていないように感じています。精神的な成長が学校でどのように起こり展開しているかについて不安を覚えることがあります。

- ◆毎週のおたよりやホームページでは、写真とともに授業の説明があり、日々の様子がとても分かりやすいです。ありがとうございます。授業参観では、去年頃から体育や家庭科、図工など副教科の参観もあり、子どもたちの色々な取組を見られてよかったです。

子どもたちの活動の様子や学び、成長などは、できるだけ学年・学級のおたより（スクリレ）やホームページでお伝えするように心がけております。まだまだ十分でない所もあるかと思っておりますので、またご意見をいただきながら、子どもたちの様子がよくわかるように発信していきたいと考えています。

様々なご意見をありがとうございました。今後の学校の取組に生かしてまいります。保護者の皆様、地域の皆様と連携し、子どもたちの健やかな成長につながる学校教育活動にしていきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。